

医王山 薬王寺 真言宗

旧姉崎町 不入斗

市原市指定文化財 本造薬師如来座像
市原市指定文化財 薬王寺算額 県内最古
市原市指定文化財 石幢型 一石六地藏

妙高山 霊光寺 真言宗

旧姉崎町 椎津山谷

宝篋印塔 徳川右衛門
新四国八十八箇所霊場巡り
本堂軒組和様 三手先組
檀家を持たない寺
市原不動尊

有秋小学校

薬王寺仮校舎
杉田清初代校長

医王山 薬王寺 真宗 旧姉崎町^{イリヤマズ}不入斗

○ 開基不詳 本尊 大日如来像を安置している。

本堂は江戸時代、失火により全焼し住職はその罪により八丈島に流罪になり島で没した。八丈島に現在も墓碑があると伝えられている。
天保12年(1842年)本堂は再建されその後昭和46年現在の本堂に建替えられた。

○ 薬師堂 本堂より少し高い西脇に建つられ、木造薬師如来座像が安置されている。

本像は昭和43年市原市指定文化財になった。像高71cm 寄木造り均整のとれた優しさ等、藤原佛(約1000年)の特色が見られる。薬師像は江戸時代の火災は免れたが像の傷がひどく、文化財指定を機に佛師 関保寿先生によって完全修復に至り、同時に理想的な收藏庫(薬師堂)も再建された。

①注 薬師様は秘佛として年1回4月8日の開帳の日以外は拜観出来ません。

②注 ^{イリヤマズ}不入斗。税を国や豪商に納めなくてはよい土地(租税免除地)
姉崎神社の神田と思われる。
不入斗地区の氏神、小鷹神社は姉崎神社の別院。

○ 薬師堂内に市原市指定文化財(寛政元年鈴木俊直奉納の算額)が納められている。別紙参照



薬王寺参道入口石佛群

- 石幢型一石六地藏 (県内最古)
高さ1.44m 寛永20年8月16日(1643年)
市原市指定文化財

① 六地藏は地獄、修羅、人間、餓鬼、天、畜生の六道すべてに分身、衆生を救う。
身近な佛様として一般庶民から強く信仰された。



薬王寺参道石仏群

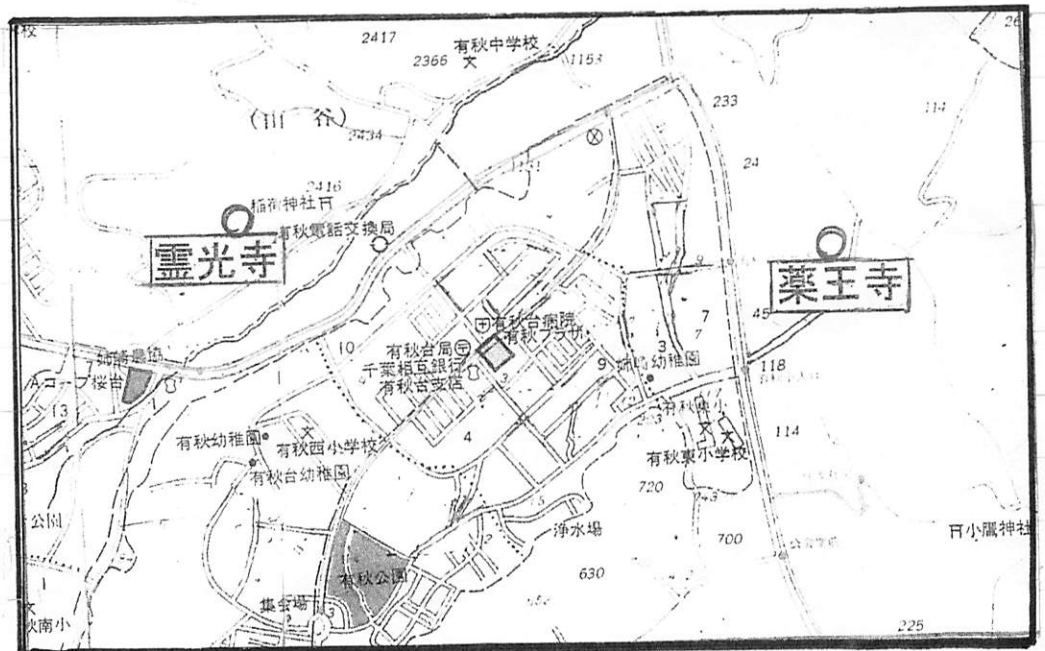
- 馬乗馬頭観音 天保9年(1838年)

① 観音様は皆慈悲にあふれた表情をしているが、七観音の内、馬頭観音だけ三面もしくは四面とも仁王様のように怒った顔をしています。怒りによって人々の目を覚まし正しい道に導く。馬の守り神 旅の安全を守る神。

- 庚申塔 文化8年(1811年)

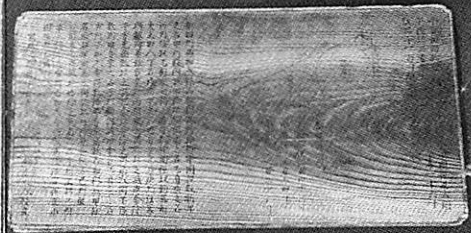
① 庚申信仰。庚申の夜眠っている間に体の中の三匹の虫が抜け出し天帝のもとにのぼって命を取ると言い伝えられ、信者はその夜は身を謹しみ夜を明かすと言う行事。
(会食、談笑の楽しみあり)

- 如意輪観音
寛文6年(1666年)
七観音の一



薬王寺算額
市原市指定文化財

鈴木俊直と算額
江戸時代の数学者たち



薬王寺（不入斗）に奉納された算額

江戸時代、流通や経済の発展に伴って、読み書きなどの実用的な知識が必要とされ、町民や農民の間にも、学問が普及し始めました。

数学は、そろばんのように日常の計算に役立つ実用的な知識です。しかし、損得勘定を扱う学問として教えない寺小屋もありました。その一方で、関孝和などの算学者（和算家）により、学問としての研究が進み、問題を解くこと自体を楽しむ流行が生まれていきます。

算学者にも流派があり、剣術や俳諧のような師弟関係や同好家の交流がありました。また、研究しながら諸国を旅した遊歴算家は、教師役の不足した地方では識者として敬われました。

市内の算学者では、寛政元年（一七八九）に不入斗の薬王寺へ算額を奉納した鈴木丈介俊直がいます。

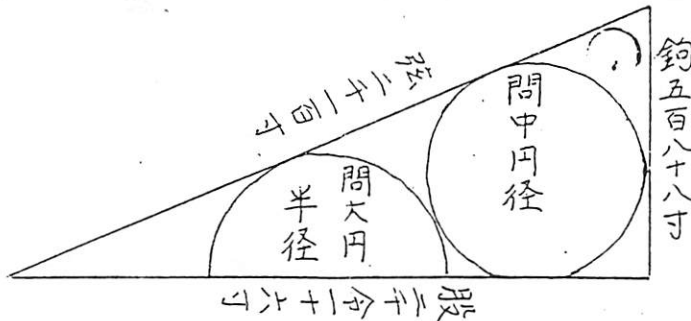
算額とは、算学者が解いた問題を額にかき、神社仏閣に奉納したものです。難問が解けたことを神仏に感謝するほか、問題を広めたり、流派を宣伝する意味もありました。

俊直の解いた問題は、直角三角形に内法する円と半円の直径を求めるもので、県内で最古、市内に現存する唯一の算額です。当時の文化的水準を示す資料として貴重であり、市の有形民俗文化財として指定を受けています。

ふるさと文化課

市原市薬王寺算額

(写)



今有如图鉤股弦之内容小円径与中円径及大円半径、只云者、鉤五百八十八寸、股二千令一十六寸、弦二千一百寸、問大中小各円径幾何。

答曰、大円半径 三百四十三寸、

中円径 五百令四寸、

小円径 一百二十六寸

術曰、列鉤、加入股、得数内、減弦、余得中円径数、折半之、名甲、列股、内減甲、余以鉤相乘之、名乙、自乘之、名丙、列弦以乙相乘之、倍之、名丁、列中円径以鉤相乘之、加入丁、名戊、折半之、名己、自乘之、名庚、列弦罫内減鉤罫、余名辛、以丙相乘之、得数以之減庚、余除平方、見商数以之減己、余以辛除之、得商大円半径数、列甲自乘之、名子、列鉤、内減甲、余名丑、自乘之、名寅、列子加入寅、得数除平方、見商数名卯、内減甲、余名辰、以甲相乘之、得数以丑除見商数、名巳、列辰、以卯相乘之、得数以己除之、見商数名午、列辰、以己相乘之、倍之、為寅、列己、加入午、得数为法、除寅、得商小円径数、合問。

寛政元年西十月吉辰

関流后富法門人 鈴木丈介俊直

杉田清校長 有秋小学校初代校長

- 明治6年創立の深城小学校と片又木小学校が明治20年4月に合併し、薬王寺を仮校舎として創立開校。初代校長に杉田清氏が就任した。
(教師4名、生徒131名)
- 杉田校長は子供達が立派に育ってほしいと願って和歌「^{ツカガヒ}稚苗を教^{ツカ}之の庭に培いて
(秋)の実りの(有)るさ^{ツカ}にのき」と詠った。
この歌詞から(有)と(秋)の二文字をとり、学校名を有秋小学校と命名し、又、有秋台の地名の由来ともなった。
- 深城小学校時代から32年間、有秋地区の教育に勤続貢献された。杉田校長は明治37年4月新校舎移転と時を同じくして退任された。退任された後も自宅で私立時習学舎を開き、自から舎長とほり多くの門下生を送り出した。
杉田先生の当時からの住居(姉崎砂子杉田家)庭先に先生の功德を称えて門下生によって「^{ツカ}頌徳碑」が建てられている。
- (注) 杉田家は代々姉崎鶴牧藩の重臣として明治4年廢藩置県迄仕えてきた士族の家柄である。



妙高山 靈光寺 真言宗

旧姉崎稚津山谷

- 寛治年間(1087年~1093年)不動尊を祀り不動院と称していた。
元禄5年(1692年)江戸湯島に幕府の援助により建立された。
真言宗靈雲寺の末寺として一門に加えられ不動院から靈光寺に改称した。
当時靈光寺は江戸幕府から手厚い庇護を受け広大は田畑、山林、免祖地を寺之りれ
その合計は昭和22年農地解放時には36町歩に達していた。

① 同時期、飯香岡八幡宮が所有していた田畑、山林は25町歩であった。

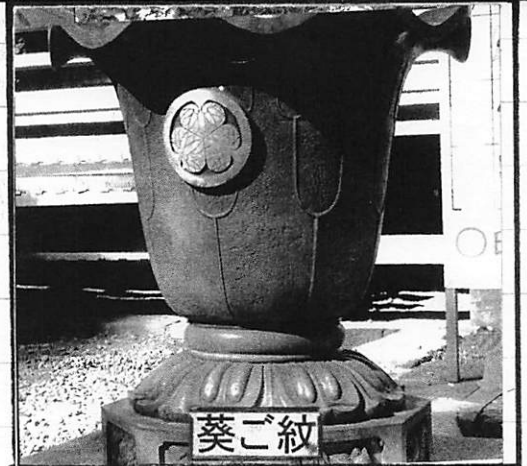
- 元禄から宝永にかけて幕府老中柳沢吉保を始め江戸諸藩主杉本和泉守、黒田豊前守(久留里藩主)等から浄財を仰ぎ、本堂を再建し真言宗の学問所として仏法を広め多くの信者を集めて隆昌した。今も靈光寺は市原のお不動様として広く地元で親しまれている。

- 宝篋印塔、従三位宰相(京都御所警護長官)。八代將軍吉宗公次男。徳川右衛門督が愛娘貞姫君の寿福を祈って建立された。
このように靈光寺は江戸幕府と大変縁の深い寺であった。

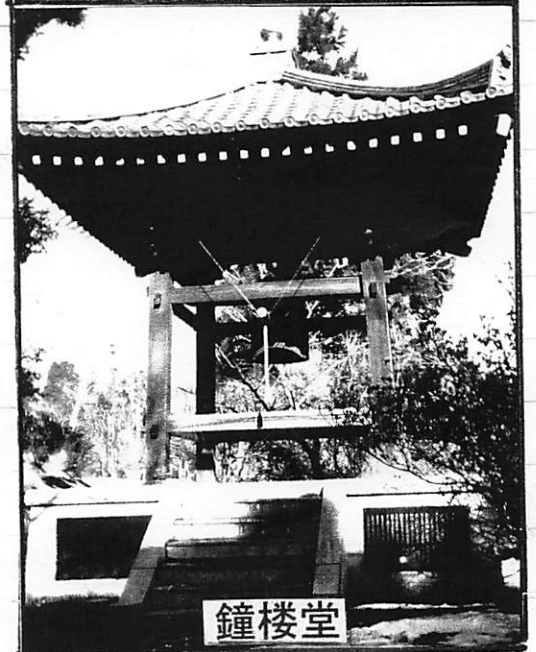
- 戦後昭和22年農地解放により山林は町歩残ったが寺の維持修理として消えた。



宝篋印塔 徳川右衛門



葵ご紋



鐘楼堂

○ 新四国八十八箇所霊場巡り

明治36年(1903年)14世智竜和尚が本堂脇の小高い木立の中に四国八十八箇所霊場巡りに倣い、八十八箇所の石碑に弘法大師の姿を刻み、新四国霊場巡りとして建立整備した。



○ 寺は昭和末迄一軒の檀家も持たず

杉木和泉守、黒田豊前守(久留里藩主)の祈願寺としてのみで、経営維持されてきた事で有名である。

○ 現在の本堂は旧本堂焼失により宝暦

7年1月(1757年)再建された堂。

○ 本堂軒組(建築様式)

軒組は和洋三手先組、尾垂木付で市原市内で本格的な本堂ではこの様式は霊光寺のみである。本堂内の須弥壇の軒組は5手先組の豪華な細工で出来ている。



⑦ 小さな堂では平蔵の国指定文化財の西願寺阿弥堂が3手先組で保存されている。



○ 昭和53年中19世桜井密厳和尚とて就任。

傷の激しい本堂を積極的に修理、基礎、工台の強化、屋根の吹替え、向拝屋根と唐破風に大きくして優美に改変した。又、平成16年には庫裏の新築も行った。

